

トルコギキョウの冬春期開花遅延対策技術

種子冷蔵(10℃、暗黒下)30日間処理した後に夜冷育苗(16~8時、14℃設定)することで初期の生育が揃い、さらに生育が促進されることで開花遅延が回避できる。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室(担当者:工藤陽史)

研究のねらい

トルコギキョウの冬春期出荷作型では低温・短日・少日照条件で生育・開花が著しく遅れることが課題となっている。近年開発された、発芽揃いや抽台促進に効果のある種子冷蔵処理とロゼット回避効果のある夜冷育苗を組み合わせることで、開花遅延対策技術を確立する。

研究の成果

- 1 定植後の生育は、種子冷蔵処理30日間が最も早く、揃いも良い(図1、2)。
- 2 第1花着花節位は、種子冷蔵処理30日が最も低い(図2)。
- 3 採花日は、種子冷蔵処理30日間が最も早く、揃いも良い(表1)。

普及上の留意点

- 1 品種に「エクローサブルー」用いて、2006年9月28日に基肥をN:P₂O₅:K₂O=1.5:2.2:1.5kg/a、条間12cm、株間12cmの中1条抜きで定植、25℃換気、11月6日以降15℃で加温して栽培した結果である。
- 2 育苗時および定植後の気候(温度、湿度)や管理条件で初期生育が安定しないため、高温期は冷房育苗や夜間冷房育苗と組み合わせる。
- 3 定植から生育初期の乾燥はロゼットや生育遅延を引き起こす原因となるため、灌水管理に注意を払う。

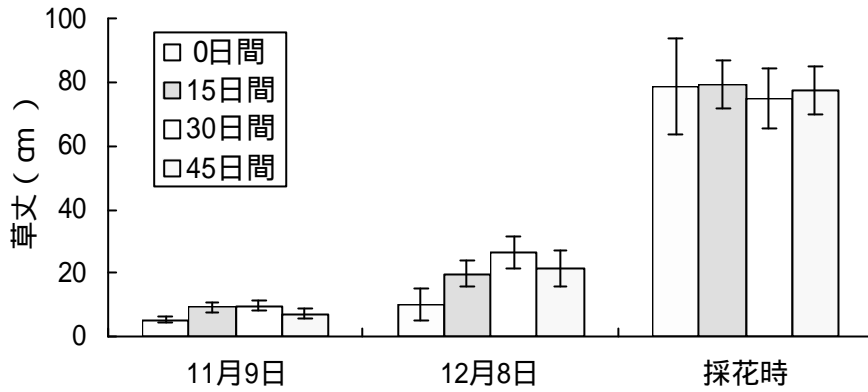


図1 種子冷蔵処理期間の違いが草丈の推移に及ぼす影響
 図中の垂直線は±標準偏差

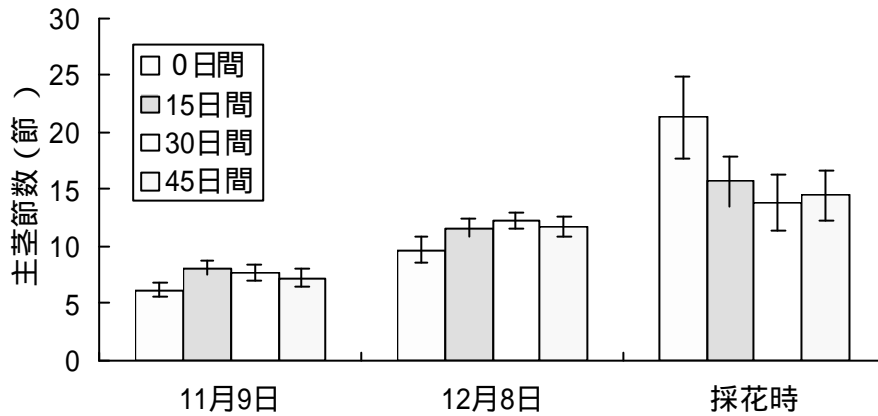


図2 種子冷蔵処理期間の違いが節数の推移に及ぼす影響
 採花時の主茎節数が第1花着花節位
 図中の垂直線は±標準偏差

表1 種子冷蔵処理期間の違いが抽台率および採花時期に及ぼす影響

種子冷蔵期間	抽台率 ^z (%)	採花日 ^y	到花日数 ^x (日)
0日間	50.0	5/10 ± 14.3 ^w	193
15日間	100	3/31 ± 11.5	153
30日間	100	3/18 ± 10.4	140
45日間	96.6	4/6 ± 13.8	159

^z12月8日調査時に茎長が5 cm以上の株率

^y切り花適期(頂花摘花後の小花3~4輪開花時)

^x定植日から平均採花日までの日数、^w±は標準偏差 (n=30)